

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームうらら 同上
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県霧島市国分下井2988番地
記入者名 (管理者)	實成 智
記入日	平成 22 年 1 月 4日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	独自の理念を掲げ、誰もが目につくところに掲示している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	スタッフミーティング等で確認し、取り組むように心がけている。	○ スタッフ間に理念が浸透できていないところもあるので、スタッフそれぞれに浸透できるように引き続き取り組んでいく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族会や運営推進会議等で公表し、理解していただいている。	○ 同上
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	屋外散歩の際に、近所の方に挨拶をしたりしている。またホームの隣りに畑を持っている方から野菜をもらうこともある。以前、利用者が無断離所をしているのを教えて下さったこともある。	○ 気軽にホームに立ち寄るといふまでは地域に浸透はできていないため、引き続き理解していただけるように努めていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に入会している。参加が可能な地域行事にはできるだけ参加するようにしている。また、地域の中学校の職場体験学習の受け入れも行っている。	○ 引き続き、地域の活動に参加し、地域の方々にホームのことを理解していただけるように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	交通安全教室、救命救急講座の開催などを地域にも参加を呼びかけている。また、地域のサークル活動の場面での介護教室・介護相談の開催も検討している。	○	地域の方が2～3名参加して下さったということはあるが、参加がない場合もある。引き続き、呼びかけは行ってきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の実施により、自分たちの長所・短所を把握し、よりよいケアができるよう取り組んでいる。外部評価の資料はスタッフが閲覧できる場所に保管している。	○	スタッフミーティングの中でケアの振り返りをするという意味で自己評価及び外部評価を生かしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告、活動報告を行ったうえで、日常のケアに反映されるような意見があった場合は、全スタッフに申し送っている。会議の議事録に関しては、スタッフが閲覧できるような場所に保管してある。	○	地域の民生委員の理解が得られず、不参加の委員も多い。市の担当者などにも民生委員の会合での周知を依頼している。また、ホームからも直接参加の意義など説明をしている状態ではある。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催しているイベントに参加したり、要介護更新認定の申請代行やその他申請したりする際に相談したり、助言をいただいている。また、適宜電話で相談するなどしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	該当する方はいらっしゃらないが、社会資源の一つとして学ぶ機会を設けるように心がけている。	○	スタッフ間でも難しそうというイメージがあるため、まずはどのような制度なのかというところから学ぶ機会を設けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止と関連して取り組んでいる。また、コンプライアンスルールを掲げ、常に念頭においてケアするよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	直接苦情などはないものの、潜在的な不満はないか振り返るように努めていきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	直接苦情などはないものの、潜在的な不満はないか振り返るように努めていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促している。参加した場合は報告書を記入してもらい、報告書・参考文献等はスタッフがいつでも閲覧できる場所に保管している。	○ 育成計画という具体的なプランはないが、スキルアップや振り返りという意味で新入職員だけでなく中堅・ベテランスタッフにも自己チェックシートなどの活用を検討している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する行事や研修に参加し、職員同士の交流やサービスの質の向上に努めている。また、グループホーム協議会に加入しており、始良・伊佐地区の他のグループホームと連携を図り、スタッフ間の交流や勉強会などを行っている。	○ 左記の取り組みを引き続き行っていきたい。経営者や管理者レベルの交流はあるが、現場スタッフ間の交流の機会が少ないため、地区GH協議会もそのような取り組みを検討しているようなので、そのような取り組みに積極的に関わっていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常の中でスタッフとコミュニケーションを図り、相談にのるなどしている。また、休憩室を設け、リフレッシュする機会ができるように支援している。それ以外では、勤務希望(有給休暇の取得も含め)を極力受け入れている。勤務形態の配慮などを行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフのアイデアを積極的に取り入れたり、仕事を任せたりすることで、やりがいを感じて仕事ができるように配慮している。また、外部研修に参加してもらい、最新の知識を得ること・他事業所のスタッフと交流を持つことで刺激を受けることができるように配慮している。	○ 今年度までは、スタッフの人員確保の面からも、外部研修の派遣が難しい面があったが、来年度以降は外部研修に派遣する機会を積極的に持っていきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に関しては丁寧に答え、ご本人の気持ちや不安などが表出できるような雰囲気作りに努めている。訪問時は個別に書類を提示し、専門用語は必要最低限にして、できるだけ分かりやすく説明するように心がけている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に関しては丁寧に答え、ご家族の気持ちや不安などが表出できるような雰囲気作りに努めている。訪問時は個別に書類を提示し、専門用語は必要最低限にして、できるだけ分かりやすく説明するように心がけている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が何に困っているのか、どうしたらお互いにとってベストの選択ができるかを考え、考えられるサービスをいくつか提示し、よりよい方法を自己決定できるよう支援することに努めている。他のサービスを選択された場合は、紹介・連絡などの斡旋を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人も含め、ホームに見学に来ていただくようにして、どういうところか、どのような利用者があるのかなど感じていただけるように努めている。また、入居前にはスタッフが必ずご本人・ご家族と直接面談し、お互いに納得して利用していただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理を一緒に行ったり、昔の話を聞くことで、スタッフが利用者の方から何かを学んだりする機会もつくるように心掛けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に情報提供を行ったり、行事の際に家族の参加も呼びかけるなどして、家族・スタッフ一緒に本人を支えているという認識を持っていただけるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に情報提供を行い、日常生活をどのように過ごしているかを分かっていること、本人同士のコミュニケーションがスムーズに図れるように支援している。また、そのことでよりよい関係が築いていけるような支援を心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、ご友人の面会も積極的に受け入れている。また、ドライブなどでそれぞれの馴染みの場所を通ること、ご本人の記憶の中でその場所が生き続けるように支援している。	○	なかなか全員というわけには行かないが、1人でも多くの方に左記の取り組みができるように努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いのできることを、できないことを考え、それぞれの残存能力を活かしながら、それぞれが何らかの役割(お盆拭きや床のモップがけなど)を持てるように支援している。	○	団体生活でどうしても相性が合わない方もいらっしゃるが、1人の方が孤立しないようにスタッフが配慮する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	挨拶状などのお付き合いをさせていただいている。また、時折、ご本人の元を訪問し、お話をさせていただいたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を一番に考えるように努めている。結果的には同じ内容であっても、ネガティブな発想ではなく、ポジティブな発想で把握するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前に利用していた社会資源の関係者や本人・家族から話を伺い、効率的に正確に生活歴等の把握ができるように努めている。また、個別にフェイスシートを作成し、情報の共有化を図り、適切なケアができるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	特に変化がなくても、日勤帯で1回はご本人の様子を記録に残し、ご本人がどのように過ごしているか、スタッフ全員が把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフミーティングやサービス担当者会議などを開催し、できるだけ多くの意見やアイデアを取り入れた介護計画を立案するように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、現在の計画でよいか点検を行っている。計画を変更する必要性が生じた場合は、随時新しい現状に即した介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で経過記録を作成しており、ご本人に関する様子を経過記録に記入するようしており、全スタッフが情報を共有できるように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の付き添いができないご家族に対しては、スタッフにて受診援助を行っている。また、外出時に車椅子などの備品の貸し出しなどを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	最寄の派出所(霧島市警察署検校橋交番)に定期的な巡回、行方不明時の探索協力を依頼している。また、霧島市消防局と連携し年2回以上の避難訓練、随時応急救護の講習、市と連携し交通安全教室を開催している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム協議会や併設のデイサービスを通じて、他事業所のケアマネジャーの方々と情報交換を行い、他事業所との連携を図ることができるように努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて地域包括支援センターのケアマネジャーの方との情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診においては、基本的にご本人・ご家族が納得したかかりつけ医を受診(往診)できるように支援している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>事業所として看取り介護の事例はないが、ご本人・ご家族が希望する場合は、看取り介護をする準備はしている。また、いつでも対応できるように、看取り介護の勉強をする予定である。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報等の取り扱いについては、第3者には気軽に見ることができない場所で取り扱うようにしており、保管場所においても場所を決めている。	○ なじみの関係ができてくると、言葉遣いが乱れてしまうことがあるため、あくまでも「ご利用様」と「ケアをさせていただく立場」ということを引き続き問いかけていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自ら希望を口にできない方に対しては、スタッフサイドから積極的にアプローチを図るなどして、できるだけ思いに合わせたケアができるように努めている。また、いくつか選択肢を提示し、自己決定ができるように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れに応じて声かけはしているが、ご本人の意向に合わせて対応している。(例:起床時間をずらしたり、食事の時間をずらしたりしている。)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけのお店がある方は、ご家族の援助にてカットしてもらっている。特に希望がない方に関しては、スタッフ(施設長)にてカットを行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては毎食利用者の方とスタッフが一緒に食べている。好みに関しても最大限考慮し、苦手な物は極力出さないようにしている。昼食や夕食に関しては、材料を刻んだり、盛り付けや配膳・下膳を手伝っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人管理は難しいものの、希望があれば、スタッフ管理・見守り下にて楽しめるようには努めている。行事などのイベントの際は、好きなだけというわけにはいかないが、適量は楽しめるように支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	日中は可能な限り、トイレでの排泄を行っている。排泄チェック表を用いて、適宜トイレの声かけや誘導を行い、できるだけ自然な形で排泄できるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯に関しては24時間OKという訳にはいかないが、スタッフの人員が確保されている時間帯においては、できるだけ好きな時に入浴できるように努めている。また、入浴の意思がない方に関しては、無理強いをしないようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	全体での消灯時間は設定しておらず、(極端に遅くない限り)寝たいときに寝ていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	読書や楽器演奏などの趣味があった方に関してはホームに持ってきていただいている。また、日常では体操、脳活性化リハビリや手工芸などを取り入れて、楽しく生活できるように努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度はご本人に持っていただいております、外出した際などにちょっとした買物ができるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフの人員が確保できている場合は、その都度希望(帰宅願望の訴えを含む)に応じて、外出したり散歩したりできるように努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に行事の一環としての外出を行ったり、スタッフの人員に余裕がある場合はその都度ドライブに出かけたりしている。	○	9人それぞれの希望に副うことは難しいが、1人でも多くの方の希望に副うことができるように努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は特別な理由を除いて、電話をかける(操作は介助)ことができるように支援している。また、レクレーションの一環として家族や友人に宛てて手紙を書くこともある。昔の文通相手への連絡の支援(電話をかけたり、手紙の代筆をしたり)もしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中はホームを開放しており、面会時は自室や和室などの別室でゆっくり談笑できるような環境を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社としても身体拘束をしない方針であり、身体拘束の事例はないが、安全対策委員会内に身体拘束委員会を設置しており、必要があればそこで検討したりできるようにしている。	○	身体的な拘束のみでなく、スピーチロックに該当する声かけをしていないか改めて見直す必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は開放している。居室のドアには鍵が設置してあるが、外側から施錠するのは基本的に空室の場合のみである。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	随時各利用者の所在は把握するように努めている。自室で過ごされている場合は、その都度訪室するなどして様子を伺うように努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品に関しては基本的にスタッフ管理としている。現在は異食や誤飲の可能性のある方がいないため、ストック分以外は特別な対策は講じていない。	○	異食や誤飲が起こる可能性が生じた場合はその都度対応策を考える予定である。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時対応マニュアルを作成し、スタッフが閲覧できる場所に保管している。転倒予防や行方不明時の対応などがマニュアル内に記載されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	霧島市消防署の協力にて、応急救護の訓練や器具の使用方法等の講習を定期的(年に2回程度)に実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上(日勤帯想定・夜間帯想定それぞれ1回以上)は避難訓練を実施している。地域の方にも回覧板にて参加を呼びかけている。	○	地域住民の参加が少ないため、引き続き地域の方に理解していただけるように取り組んでいく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前や介護計画作成の際に、本人に起こりうる症状の変化、事故の可能性を説明し、その上で本人・家族の意向に合わせた生活を送ることができるように、家族と対応策を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、または何らかの異常が考えられる場合は、体温・血圧・脈拍などを測定し経過記録など個別記録に情報を残している。必要時は速やかに協力医療機関と連絡を取り、医師の指示に基づき対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人が服用している内服薬の説明書を個人台帳につづっており、スタッフがいつでも閲覧できるようにしている。また、下剤の服用など、スタッフの判断が必要とされるものについては、必ず2人以上のスタッフで相談して判断するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各人が一日1500cc以上の水分を摂取することができるように支援している。また、食事に関しては、管理栄養士に相談し、助言をもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・介助を行っており、義歯の状況や口腔内の状況を観察するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に関しては毎食後に摂取状況をチェックし、状態を把握できるようにしている。また、栄養バランスに関しては、管理栄養士から助言をもらい、メニューを作成している。尚、水分量に関しては、水分チェック表を作成し、状況に応じて水分を勧めて、一日に必要な水分が摂取できるように支援している。	○	水分量に関しては一日1500cc程度を目安に摂取できるように支援しているが、もともと水分を摂りたがらない方や、重度の認知症の方に対しては一日の目標量に達しないこともある。そのような方に対しても、十分な量が摂ることができるように努めていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	定期的に感染対策委員会を開催し、委員会にて感染対応マニュアルを作成している。新型インフルエンザなど新しい感染症に対しても迅速に対応できるように努めている。マニュアル等はスタッフが閲覧できるような場所に保管している。	○	予防に関しては引き続き取り組んでいく。ホーム内で感染症に対応した事例はないが、対応マニュアルがきちんと実践できるように取り組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は定期的にハイターにて消毒を行っている。また、食材に関しては賞味期限の確認を徹底し、色・臭い等が悪い場合は期限内でも使用しないようにしている。また、できるだけ生もの（刺身など）は避けるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を植えている。また、日中は玄関を開放しており、誰でも中に入りやすいような雰囲気作りには努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからはウッドデッキを通して外の風景を見ることができるよう設計されている。また、ソファや観葉植物などを置き、生活感がでるように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼を利用したベンチやソファを配置しており、人の和から離れて独りで過ごせたり、2～3人で過ごせたりできるように工夫はしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台など以前から本人が使っていた家具または、愛用していた道具などを持ってきていただくようにしている。	○	入居前に説明はするものの、家具に関しては持ち運びの大変さもあり、衣装ケースのような物が主である。小物類や趣味の物や箱などを持ってきていただくように引き続き取り組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は1日2～3回は行っている。また、空調に関しては、適宜調整を行っており、外気と極端に差がないように努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は完全バリアフリーで、各箇所に手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の入り口に人形などの目印をつけたり、トイレには大きく「トイレ」と貼り紙をするなど、混乱しないように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に畑を作っており、菜園を楽しむことができるようにしている。また、各居室の窓側に花壇を設置しており、室内からも草花を楽しむことができるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

短時間で済む計算問題や漢字ドリル、かるた、様々なイベントを取り入れた手作りのすごろく等、脳の活性化を図ることができるようなレクレーションや季節を感じていた